

韓国内分泌学会で褐色細胞腫の遺伝子診断で特別講演して

筑波大学医学医療系臨床域スポーツ医学/検査医学教授 竹越 一博

皆さま、御健勝のことこのこととお慶び申し上げます。9期生(1987年卒)の筑波大学の竹越です。2017年7月8日に韓国(ソウル)の内分泌学会副腎分科会で褐色細胞腫の遺伝子診断にて特別講演する機会がございました。この場をお借りして、簡単ではありますが、感想も交えつつ御報告させていただきます。

(1)経緯

3月下旬に平素大変にお世話になっている東北大病理の笹野教授から「韓国内分泌学会からアジア人における褐色細胞腫の遺伝子検査と言葉で日本からの特別講演の演者を推薦出来ないか?と問い合わせがございまして、勝手ながら先生を推薦させていただきますました」というメールを頂きました。

尊敬している笹野教授の御推薦は望外の光栄だと恐縮しましたが「自分で出来るかな?」北朝鮮からミサイル飛んできたら困るな?と躊躇しましたが、韓国は隣の国にもかかわらず行ったことがありませんし、何よりも韓国の副腎の研究者と知り合いになることが楽しみで講演を快諾させていただきました。

その後、5月に韓国の担当者から連絡があり、韓国内分泌学会の分科会で「The Korean Adrenal Gland and Endocrine Hypertension Study Group (KAES) 2017」の総会で「Plenary Lecturer」の依頼と「Current status of genetic testing in PPGLs in Japan」というテーマが演題以外にハンゲルで全然読めないのは驚きかつ困惑しました(これは筑波大の韓国からの留学生に読んでもらいました)(図1)。

会場はソウルのSeoul National University Hospitalです。当日の参加者約100人と聞きまし。座長の私の学歴の紹介で「Dokyo University School of Medicine」ですが、英語だと確かに「Dokyo」が「Tokyo」に聞こえます(米

国留学中にもアメリカ人から「東大医学部卒と思われることあり」もしかすると獨協医大の国際的な知名度の低さと相まって、東大医学部卒と間違われたかもしれないと聞きました。「オレもいよいよ韓国まで来ると東大の医学部卒か、あはは?」と思いつき訂正しませんでした。

講演内容は褐色細胞腫の遺伝子診断の日本の現状として、2007年から私自身が研究責任者として筑波大で行っている多施設共同研究を主に、新しい生化学的診断と基礎研究を加えて40分話しました(英語にて)。現在

日本の55施設と共同研究をしており、既に解析した検体数が300例に近く、褐色細胞腫の遺伝性の率は教科書で習った10%どころでなく実は35%もあること等です。質問はいくつか出ましたが、なぜかオマケで話した生化学的診断に関する事が多く、遺伝子診

断の質問は1つでした。どうも韓国では日本以上に褐色細胞腫の遺伝子診断は認知されてないという印象を持ちました。ランチの時に韓国のKAESの複数のDrに確認したところ、やはりほとんど認知されてないようです。ただし、韓国の保険に褐色細胞腫の遺伝子診断が収載予定と聞きまして、「これは侮れないぞ」と思いました。

(2)講演をして感じたこと

断の質問は1つでした。どうも韓国では日本以上に褐色細胞腫の遺伝子診断は認知されてないという印象を持ちました。ランチの時に韓国のKAESの複数のDrに確認したところ、やはりほとんど認知されてないようです。ただし、韓国の保険に褐色細胞腫の遺伝子診断が収載予定と聞きまして、「これは侮れないぞ」と思いました。

午後にはKAESの御厚意で「午後の韓国Drの講演もすべて韓国語につき聞いていただけでも理解しにくいでしょう、英語のできる学生を見つけますからソウルの観光で

もどうですか」とのことです。本来運営スタッフの1人のソウル大の学生さんにソウル市内を案内してもらいました。会場から目と鼻の先である景福宮(李氏朝鮮の王宮)等、韓国の最高学府の学生さんの専属ガイド付きで観光できたとはなんとも贅沢でした。彼の説明にも秀吉の朝鮮出兵の説明がありましたし、あちこちに韓国語・英語・中国語で歴史の説明が貼り付けてあります。実際に現地でも聞いたり読んだりすると、あらためて我々日本人が古くから韓国人のあたりにいろいろ影響してきたか痛感しました。

案内の学生さんは、ソウル大でジャーナリズムを専攻している大変に感じの良い男子学生でした。日本には以前に札幌に来たことがあり日本人が礼儀正しく利他的なところ

を見て、カルチャショックを受けたとのこと。近々大阪のUSJに行く予定で、ハリポッターのアトラクションを楽しみにしているとのことでした。ここまでは、いかにも日本にも良くいそうな現代風の若者でしたが、話しているうちになんとつい3ヶ月前まで徴兵で韓国軍に所属しており除隊したばかりとのこと。改めて、ここは外国なんだなと思いました。

(4)懇親会
情報交換会は最高に面白かったです。特にあちらのKAESの会長のDr.Yooはひょうきんな方でした。最初は、私に「韓国の遺伝子診断の発展に今後も協力お願いします」とか、上記の観光の感想を申し上げると、「本当に古くから日韓両国は影響し合ってきており、本当に同じ国と言ってもいいくらい近い間柄です(筆者の意識あり)」等々とな事をおっしゃっていたのですが、そのうちアルコールが入ってき「You are Korean! You have Korean ancestors」と自分に何度も言うてくるのです。周りの韓国のDrは少しハラハラして止めていました。私もどうして自分が突然韓国人になるのかよくわかりませんが、それだけ親しみを持ってもらえて迷惑どころかかえって嬉しかったです。学問はとも簡単に国境をも超越するということも思いません。ちなみに、帰国後、父にきいたところ韓国人の「先祖はいないという事でしたが……」

Dr.Yooは北朝鮮からミサイルが飛んでくると困るので本学会の参加を最初は躊躇したことを伝えたところ、「日本人はそんなことを心配するのですね」という感じでした。彼曰く「確かに戦争は起こり得るかも知れないが、そのことはここ20年近

く言われ続けているし、万が一ミサイルを発射した場合は北の体制がそのままで済まなくなることは、金正恩が一番良く知っているはずだ」という事でした。さらに「THAAD(Height of Intercept and Anti-Ballistic Missile)にも恐れ入りました。みなさん、この事は恒常的過ぎて半分笑い飛ばして暮らしている印象でした。」

(5)感想とまとめ
「先生!こんな時期によく韓国なんか行きますねエ」と患者さんも含めて色々な方から面白がられました(今生の別れかもしれないねとか)、韓国へ行って本当に良かったです。なんといいっても、あちらのカウンターパートとなる先生たちと、今後の遺伝子診断の進め方を意見交換できました。やはり、「将来的には、お隣同士の日韓共同で研究を進められたらいいですね」ということになりました。

ところで、我々日本人と全く同じ顔をした人たちと、英語で冗談を言っているのを見て笑っていたのも思い出してみると、本当に不思議な体験です。お互いに見た目が同じため、外国人である頭では理解できて心情的には同胞としか思えないことが行き違いや誤解に繋がりが、これらが大きくなると国レベルでのすれ違いに繋がるのか

などノンポリな自分でも両国関係を考えるきっかけになりました。今回の韓国での講演を通じて、本当に研究者冥利に尽きると思いました。やはり学問を同じくする者同士が集まれば、国は関係なく容易に理解しあえる部分があると思えました。

ところで、筆者が本原稿を書いている時点(2017.8/14)でも、北朝鮮がグアムにミサイルを打ち込むとか米国がそれに報復するとか、報道されています。私としては、KAES会長のDr.Yooの予測が外れないことを祈る

のみです。あの近代的な大都會ソウルが戦争により火の海になり、そこを彼らが逃げまどうところや、あの優しいソウル大の学生さんが銃を構えているところは想像したくもありません。平和に自由に学問が出来る素晴らしい感謝するともに、かの国に住む人々に幸多かれと祈るのみです。

最後に、このような機会を与えていただいた東北大病理の笹野公伸教授の御厚意には再度深く感謝申し上げます。

2) 講演後のKAESのDrとの全体写真
The plenary speaker for the 3rd symposium of Korean Adrenal Gland and Endocrine Hypertension Study Group KAES July 8, 2017 in Seoul National University Hospital. 前列中央で本を抱えているのが筆者です。左がKAESの会長のDr.Yooです。

REGISTRATION

SYMPOSIUM PROGRAM

제3회 대한부신-내분비고혈압 연구회 심포지엄

Cutting-edge Symposium of PPGLs

1) 学会のプログラム ハンゲルで全然読めません。



2) 講演後のKAESのDrとの全体写真 The plenary speaker for the 3rd symposium of Korean Adrenal Gland and Endocrine Hypertension Study Group KAES July 8, 2017 in Seoul National University Hospital. 前列中央で本を抱えているのが筆者です。左がKAESの会長のDr.Yooです。